

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 0170501084 | | |
| 法人名 | 有限会社 北海道ふれあいの家 | | |
| 事業所名 | グループホーム ふれあいの家・月寒 | | |
| 所在地 | 札幌市豊平区福住1条1丁目9番24号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年9月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年12月24日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501084-00&PrefCd=01&VersionCd=022 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年10月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、地下鉄駅に近い静かな住宅街に位置した、広い庭つきの一軒家です。庭には季節ごとの花が植えられ、家庭菜園作りも楽しんでます。近隣には、大型スーパーや病院などがあり、利便性に恵まれています。女性ばかりの7名の利用者さんと、毎日のように散歩や買物に出かけ、近隣住民と挨拶や会話の他町内行事である盆おどりや、防災訓練等にも積極的に参加をし、交流関係を深めています。職員は、利用者さん一人ひとりの個性を尊重した、介護に心がけ接しています。食事の準備などでは、野菜を刻む、盛りつけ、食器を洗うなど、個々の利用者さんに声かけをし生活を楽しみながら、残存能力の維持向上を図る支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅街に立地している。地下鉄福住駅に近く、近隣には大型スーパーやレストラン、商店があり利便性に恵まれている。2階建の趣向を凝らして建てた民家を改修してグループホームとして利用しているが、手入れの行き届いた庭や家の佇まいに家庭的な安らぎが感じられる。1ユニットの少人数制であるが、ホーム長はじめ、管理者、職員は少人数の良さを活かして、一人ひとりに寄り添い、質の高いケアサービスを実施している。残存機能の維持向上を図り、日常生活動作を通して心身の機能回復を図っている。日常的には個々に応じ、散歩、菜園の手入れ、買い物、外出への支援を行い、季節に合わせて花見や蕁狩り、菖蒲園見物など、生活を楽しむよう行っている。月2回実施している指導者を招いての音楽療法は、利用者の楽しみになっている。指導者のピアノに合わせて、鈴を鳴らしたり、合唱するなど、心身のリハビリを兼ねた有効な時間となっている。運営推進会議は定例に開催している。地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、家族が職員と共に参加している。全家族に参加を案内し、多数の家族が参加している。会議では事業所運営や災害対策等について話し合い、討議内容は運営に反映させ、サービスの質の向上を図っている。地域との関係については、町内会に加入し時には役員を引き受け、職員は利用者と共に活動するなど地域に溶け込んで生活している。子供110番の家として、地域に協力する等、子育て世代の人々とも交流がある。手芸品を寄贈されたり、認知症の相談を受けるなど双方向での交流がある。「思いやりの心」を理念として、高齢者が地域の中でゆとり、楽しく、一緒に生活できる様に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ケアサービスを提供する意味で、常に抜本的な考え方に立ち戻る姿勢を心がけています。 | 地域の中で楽しく一緒に暮らせるように、事業所独自の理念を策定している。理念である「思いやりの心」を大きく書き、玄関ホールに掲示している。管理者・職員は理念について会議等で話し合い共有し、利用者へのサービス提供を行っている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 子供110番、班長時には回覧、チラシの配付は利用者さんと。子供神輿は町内会役員さんの気づかいで、ホーム前で一服されます。子供さん、若いお父さん、お母さん達との交流もあります。漬物、菜園でとれた野菜のおすそ分けをしあえる等の、お付き合いをさせて頂いています。 | 町内会に加入し、事業所の管理者は班長を務めた経験があり、利用者も回覧板やチラシ配布に協力している。子供110番の家として、子育て世代の人達からも親しまれている。子供神輿が来たときは事業所前で休憩するなど、日常的な交流が行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 町内会の会議に出席。町内会の防災訓練、清掃等に利用者と参加します。地域の人より認知症の相談があった場合はアドバイス等出来る限りの事をしています。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度の運営推進会議を行い利用者の状況を報告しています。評価の意見を頂き、運営サービスに取り組んでいます。災害時訓練も年に二回参加協力して頂き意見をいただいております。 | 会議は定例に開催し、包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、家族、職員が参加している。事業所運営、災害対策、行事等について話し合い、会議録は行政、家族に送付している。討議内容を活かして、サービスの質の向上に努めている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市、区・地域包括センターの担当者と電話や窓口で利用者、運営等の相談をさせて頂き連携を深めています。 | 行政担当者や地域包括支援センターとは日頃から連絡を密にとり、ケアサービスの取り組みについて実情を伝えるなど常に協力関係を築いている。直接又は電話を利用して利用者の状況や運営について相談するなど連携を深めている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の研修を受け、勉強会をしています。日中は玄関を施錠せず扉も開放しております。利用者は自由に外に出て庭の花を眺めたり、又は近くの公園に行くこともあります。常に見守り、さりげない言葉かけをしながら近間の散歩、買い物につなげることもあります。 | 身体拘束に関するマニュアルを整備し、身体拘束のないケアを実施している。外部、内部の研修を受け、職員の拘束に関する意識の共有を図っている。日中、玄関は施錠していない。玄関口にはモニターテレビを設置し、見守りながら自由な暮らしを支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修等を受け、その資料を元に勉強会をしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度的な知識は勉強会で理解をしている。研修等にも機会があれば参加し、知識を深めよう努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には事業所のケアに関する考え方、取り組み、退去を含めた対応可能範囲について説明を行っています。状況の変化等により契約解除に至る場合は家族と相談し、その後の対応方針も含めて納得を得られるよう説明している。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年6回の運営推進会議へ参加をお願いし、又は来訪時に意見要望などを遠慮なく、話してもらえるよう常に環境作りをしている。 | 家族来訪時には話を聴き、家族の意見を運営に反映させるよう努めている。毎月発行の「ふれあい便り」で利用者の暮らしぶりを家族に報告し、運営推進会議は家族全員に参加を呼びかけている。外部への苦情受付機関を明示し、案内している。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃より職員の要望、意見を聞くよう心がけている。日々のミーティング、内部会議、食事会、個別面談を行い、意見、考え方を聞くようにしている。 | ホーム長及び管理者は、日々の申し送りや内部会議、食事会、個別面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の意見は大切に受け止め、検討し運営に反映するよう努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 就業規則等を整備し処遇改善に努力している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員に合った研修を受けられるようにしている。各自に職責を与え自信を持って勉強してもらうことにしている。研修を受けた職員は、内部会議で発表し勉強している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会等に参加し交流を深めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面談で生活を把握するよう努めコミュニケーションを通じて、本人の言葉感情を感じとり、求めていること不安等を理解するよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族との面談により会話だけでなく、声のトーン等からも心理を理解するよう努め事業所として、どのように対応できるか、話し合いをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人とご家族の現状を理解し、当ホームに入所する事で本人、家族が良い状態になるよう話し合います。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者さんは、人生の先輩であると言う考えを職員が共有しており、普段から利用者さんに教えてもらう事があり、又そう言う事が多く持てるように工夫や声掛けに心配りをしています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は家族の心に寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を共に支えるために、ご家族と同じような思いで支援している事を伝えていきます。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族、知人が来訪した時などには居心地良く過ごして頂く雰囲気作り心がけております。又、スーパー等でなじみの人に会った時には、職員が「遊びにいらして下さい」との声掛けをして上げる時もあります。馴染みの美容師さんも、継続的に交友が出来るように努めています。 | 家族や親しい友人が来訪した時には、自室でゆっくり寛げるよう配慮している。馴染みの商店や美容室の利用を支援している。利用者が楽しみにしている年末、年始、お盆の帰省は、可能な限り継続されるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者さんの表情や性格を見極めながら良い関係が作れるように、声掛けを必要に応じて職員が間に入る等の心配りをしています。又心身の状態や気分、感情で日々、時々変る事もあるので、注意をし見守るようにしています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了しても、今まで通りの対応をし、他施設に移動された利用者など、遊びに来られる雰囲気作りをしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃の会話や表情、行動などから本人の意向や思いを汲みとり、職員間で情報交換しながら本人の希望にそえるよう努めている。 | 利用者一人ひとりに寄り添い、日頃の会話や表情から本人の希望や思いを汲み取っている。家族からも情報を得て、職員間で情報交換し、本人の希望に沿うように努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴に関する情報を、本人や家族から教えて頂き、利用者にとって大切な出来事や思い出を把握するようにしている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | その日の様子を見ながら心身状態を職員間で把握し、その人に合わせた生活を支援している。 | | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常の支援の中から職員間で気づいたこと等を話し合い介護計画の見直しに活かしている。 | 介護計画は、本人、家族の意向を尊重し、医師の所見や看護師の意見を参考にし、職員全員が参加した会議で話し合い、介護支援専門員がまとめている。3ヶ月ごとの定期的なモニタリングの他、変化に応じて随時見直しをはかっている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や表情、会話、排泄、食事、水分摂取量等を個別の介護記録に記入し、介護計画の見直しにも活かしている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 活動的な人には希望に合わせた外出をしている。誕生会には家族も招待し一緒に過ごす時間をとっています。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣住民や地域の人々の力を借り見守られた生活を送れるよう協働している。町内会の行事、清掃、盆踊りにも参加している。 | | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族が納得した医療機関を確保している。週に一度看護師の健康チェック、月に一度主治医の訪問診療があり、看護師の意見も伺い訪問診療時、又は必要に応じて通院、関係医療機関への受診、処方を受ける。電話で家族への了解、報告も行う。 | 本人、家族の希望する医療機関への受診や連絡を支援している。月に1度の提携医の往診と週1度の看護師の訪問で日常健康管理を行い、緊急時には医師に相談し医療機関に連絡がとれる体制となっている。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 健康管理など細かな変化を申し送りや内部会議を通して利用者一人一人の状態をカンファレンスしている。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には時折見舞いに訪れ利用者の様子を見に行きます。担当ワーカーや家族とも情報交換を行っています。 | | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期について事業所として対応できる最大限のケアについて、利用開始時に本人や家族に十分説明しています。主治医と連携を図り対応方針を職員や家族と共有している。 | 「重度化や終末期に向けての指針」について、入居時に本人、家族と話し合い、文書で意志確認をしている。状況に変化が生じた場合は、医師、家族、職員が方針を共有し、できるだけ支援を行っている。看取りについての職員研修を予定している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防隊による救命救急法の研修を通じて応急手当を行える学習をしています。又看護師と各利用者に合わせた急変時の対応について話し合っています。 | | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の指導のもと利用者を含めた避難訓練を年2回実施するとともに毎月自主訓練を行っている。地域住民の訓練参加や緊急通報の協力が得られ、又、災害については地域に長く生活されている方に経験した災害状況の講演をお願いし勉強し協力体制を強化している。 | 避難訓練は、年2回消防署指導の下で夜間も想定して実施している。避難訓練や緊急時連絡網には、地域住民の協力がある。月1回自主避難訓練を行い、毎日点検表で事業所内の暖房器具やコンセントなどの安全を確認している。スプリンクラー、自動通報装置を備えている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人の気持ちを大切に考えて、その時の状況により言葉がけや対応をしています。 | 一人ひとりの人格を尊重し、職員は言葉や動作に配慮して対応している。個人情報記載の書類はプライバシーを尊重して保管、取扱いに注意している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者との会話の中で本人の思いを引き出し、本人の思っている事を引き出せる様に声かけ対応しています。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の出来る事はゆっくりでも自身でやってもらい、職員は常に見守りし必要時介助いたします。危険性がない限り本人の希望を尊重しています。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人が着たい服を選んでもらったり、見守り声かけにて、おしゃれが出来る様にしています。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の出来る事を見極め、調理、後片付け、盛りつけ等を支援しています。昼食は職員と一緒に座り会話をしながら頂いております。“上手、ありがとう、助かる”とねぎらいと、感謝の声掛けを忘れていません。 | 献立は、利用者の好みを取り入れている。利用者には、能力に応じて、食材の買い物、調理の下ごしらえ、後片付け等を手伝っている。職員と共に食卓を囲み談笑しながらの食事は、家庭的で温かい雰囲気である。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取状況を観察してます。(水分摂取も含め)水分摂取を控えるという引き起こす原因となるので気をつけてます。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々に応じてうがい、口のススギ等対応しています。1日1回(夜)義歯洗浄剤を使用。 | | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 安心感を持っていただけるような声かけを心掛けています。不愉快な感情を与えないような声かけに注意し、自立に向けた声かけ誘導を行っています。 | 個々の排泄記録を参考にして、表情や動作から排泄パターンを把握し、さりげなくトイレに誘導している。トイレでの自立排泄を支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日のメニューを考え常に工夫しています。又、栄養士に献立表を見てもらい意見を受入れています。水分、又、体操、レク等で適度の運動もされています。 | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 利用者の希望、状況に応じて対応し、拒否のある場合は、声掛けのタイミングをみて無理強いすることなくシャワー浴などで対応しています。 | 利用者一人ひとりの体調や希望、タイミングを考慮して入浴支援をしている。週2回以上の入浴を基本としているが、シャワー浴、清拭も取り入れ、浴室の安全、清潔にも配慮している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自分の意志で眠りにつくまで見守る。心地よく感じてもらい安心して寝られるよう心掛けてます。眠れない時、一緒にお茶でも飲み話を聞いてあげる。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服用時は手渡しで、飲み込みまでを確認する。服用後の観察も心がけ医師への報告につなげています。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 体調に合わせて居間で楽しく過ごして頂くよう、声かけ、見守りを行う。職員も談話の中に入り個々の嗜好品を頂きながら楽しい雰囲気になるよう努力する。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 外部評価 | | |
|------|------|--|--|--|--|
| | | | 自己評価 | 実施状況 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの健康状態・希望に合わせ、徒歩や車を利用し、いちご狩り、レストランなどでの外食、喫茶店でのコーヒータイム、買物、ドライブ等の外出を積極的に支援し楽しんで頂いています。 | 日常的に、近隣散歩、花木の手入れ等で戸外に出ている。季節に合わせ、花見、苺狩り、菖蒲園見物に出かけ、冬季は外食や大型店へ買い物に行くなど、積極的に外出計画を立て、個々の希望に沿うよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人個人の金銭出納帳を用意・記帳しホームで管理しています。本人が希望の物がある時は一緒に買物支援しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族・知人等への手紙・電話を希望時に自由にできるよう支援している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 安らげる空間作りとして、一般家庭に近い雰囲気が出るように心がけ、季節が感じられる壁絵や花を飾り、大きなカレンダーで日付が解るよう工夫している。 温・湿度をチェックし口調、冷暖房器具で調整して快適な生活ができるよう心がけております。 | 居間にはピアノを置き、鉢植えの花や人形、利用者の作品等が飾られ、温かく家庭的な雰囲気である。出窓からは庭が眺められ、季節の花々や赤い実を付けたオノコの木が見える。温度、湿度は適切で騒音はない。快適な環境づくりに配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居間の他、2階のベランダ前にテーブルセットを用意。日当り・風通し良く歓談を楽しんでいる。 夏季は庭にもテーブルセットを用意、花を見たり日光浴やティータイムを楽しまれる。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各々に好みや趣味に合わせ、絵や写真、花などを飾られている。収納棚やタンスがあり整理整頓ができるようになってます。 | 居室には馴染みの家具や趣味の写真を飾り、その人らしく安心して暮らせるよう工夫している。収納棚が設置され、程よく整頓されている。掃除も行き届き清潔である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 玄関・トイレ・浴室・階段・廊下到手摺りを設置、陰にならないよう照明を多くつけ足の不自由な方も安心して移動できるよう工夫しています。 | | |